

[記事一覧選択画面に戻る](#)

20日から3夜連続公演「現代神楽劇を楽しんで」

(8月19日付け)

直径6メートルの水上回転舞台で親子3人が演じるユニークな野外公演が20日（金）から22日（日）まで3夜連続午後7時から、オホーツク庭園で開かれる。主催・出演は大阪を拠点に全国32ヵ所公演ツアーを行っている野外劇団「楽市楽座」。演目は同劇団座長、長山現さん（51）の作・演出・作曲による「鏡池物語」＝写真＝で、副座長の佐野キリコさん（43）は「こどももおとなもお年寄りも 笑って泣ける、不思議な現代神楽劇です。野外劇の自由な雰囲気を楽しんでください」と来場を呼びかけている。上演1時間15分。入場無料（投げ銭歓迎）。

同劇団は1991年に結成。20年目を迎えるにあたり、客層が演劇関係者に固定化してきた大阪を離れ、芝居を見る機会の少ない全国各地で野外劇を楽しんでもらおうと「野外劇団」として再スタート。今年4月から岡山市を皮切りに鳥取市、広島市、北九州市などを巡り、7月中旬以降は東北から北上してきた。道内では札幌市、深川市で終えており、紋別市はツアー最北の地。最後は11月に沖縄県うるま市で締めくくる予定。

「金魚姫と蛇ダンディ、仲むつまじく暮らしていたが、金魚と蛇だし子はできぬ。チクチク刺す虫、名前もない虫、イヤな虫、ホーキオニと名づけてみたら、なんだかとっても愛しくなっ...」。蛇ダンディ（座長）と金魚姫（副座長）、そしてホーキオニ（娘の萌さん、10歳）が歌って踊って「生きものたちのイノチのおまつり」を演じる。



[記事一覧選択画面に戻る](#)